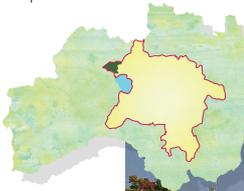


磐梯町

ばんだいまち

磐梯朝日国立公園を通り裏磐梯に抜けるゴールドライン。雄大な自然の眺めを満喫できる。



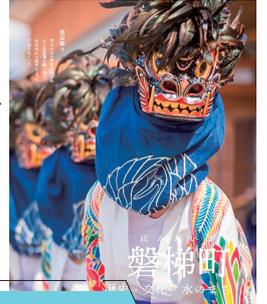
2008年に復元された慧日寺金堂。会津仏教文化発祥の地として知られている。



会津藩の水乞いも行われた龍ヶ沢湧水など、磐梯西山麓湧水群がある名水の里。



五穀豊穡を祈って各家の前で踊る会津赤枝彼岸獅子は、会津地方に春を告げる民俗芸能だ。



観光と農業と製造業が自慢の町 磐梯山のアクティビティが楽しめる

磐梯朝日国立公園内にある磐梯山の自然を活かした登山やスキーなどのアクティビティが楽しめる町。有名な星野リゾートの「磐梯山温泉ホテル」「アルツ磐梯スキー場」もある。農業は稲作中心だが、ホウレンソウやサツマイモの栽培も盛ん。また、名水と地元米で酒造りも行われており、名だたる酒蔵が2つある。世界的なカメラ用レンズメーカー・シグマの会津工場があり、レンズを製造している。

【観光スポット】

名水百選に選ばれた磐梯西山麓湧水群が町の水道水に使われており、慧日寺金堂(えにちじこんどう)近くの磐梯山慧日寺資料館の庭園にも引水されている。名水、仏間、民俗芸能と見どころいっぱいだ。

熱い心と陽気な性格で、磐梯町を思いっきりPRするよ!

移住支援

県外からの移住者が住宅取得で新築した場合は最大180万円、中古住宅は最大130万円を補助。定住を目的に空き家を改修した場合は最大10万円、空き家の家財道具などを処分する場合に最大10万円を補助する。ご当地キャラ ロボばんじい



磐梯町政策課 ☎0242-74-1211

<https://www.town.bandai.fukushima.jp/soshiki/seisaku/jju-about.html>



COLUMN

「こおりやま広域圏」のお試し住宅

こおりやま広域圏が気になったら まずは暮らしを体験してみよう!

「こおりやま広域圏」内には、格安または無料でその地域の暮らしを体験できるお試し住宅がある。ここでは4市町村の施設を紹介。利用の条件や期間に違いがあるので、あなたに合うものを選んで利用してほしい。

玉川村「たまかわ観光短期滞在トライアルステイ」

村外在住の方が玉川村での観光、仕事、移住体験などで利用可能。SNSやブログなどで玉川村の情報発信に協力してくれる方などを求めている。まずは公式LINEか問い合わせフォームでご相談を。詳細については、「玉川村トライアルステイ」で検索。



- 利用料 / 1組1泊1000円(最大4名まで)
 - 利用期間 / 2泊3日～29泊30日まで
 - 主な設備 / 電気、ガス、水道、駐車場1台分、バス・トイレ別、Wi-Fi完備、生活家電、調理器具
- ☎玉川村企画政策課 ☎0247-57-4628

田村市「お試しチャレンジハウス」

田村市での暮らしを体験できる「お試しチャレンジハウス」を用意。申請は20歳以上で、田村市への移住を検討している方ならOK。就農や移住に向けての仕事探しや居住探しの拠点としても利用できる。利用開始希望日より2週間前までに申し込みを。



- 利用料 / 1人1日当たり300円
 - 利用期間 / おおむね2日以上1カ月以内
 - 主な設備 / バス、トイレ、キッチン、エアコン、冷蔵庫、掃除機、テレビ ※寝具なし
- ☎田村市企画調整課 ☎0247-61-7615

三春町 お試し住宅「町営住宅 かいやま団地」

利用できるのは①～④の要件を満たす単身者。①町内への移住希望者、②転勤や婚姻や住宅購入等による転入予定者でない、③暴力団員やその関係者でない、④1カ月以上滞在できて町が指定するイベントに参加し、その内容や魅力をSNSで発信。町の新規就農支援制度を活用する単身者も対象になる。



- 利用料 / 月2万円
 - 利用期間 / 1カ月単位で1年まで(就農希望者は2年まで)
 - 主な設備 / 電気、水道、最低限度の家電製品、Wi-Fi完備
- ☎三春町企画政策課 ☎0247-62-1122

天栄村 お試し住宅「天栄暮らし」

空き家になっている村内の民家を利用し、就農体験、村内案内、地域イベント参加など、豊富な体験プログラムがある。電話かメールで利用希望日を伝えて空き状況を確認。申し込みはHPより「利用申込書」「短期滞在計画書」「体験プログラム申込書」と本人確認できる書類のコピーを提出。



- 利用料 / 1人1泊500円(布団貸し出し料の実費) ※幼児無料
 - 利用期間 / 1日～1週間以内
 - 主な設備 / 電気、水道、最低限の家電・生活用品、駐車場、バスアメニティなど
- ☎(一社)天栄村ふるさと夢学校 ☎0248-94-2232

猪苗代町

いなわしろまち

コロナの影響で廃業した観光遊覧船が復活。「かめ丸」は日本唯一の亀形レストランクルーズ船だ。



猪苗代湖や磐梯山を抱えるリゾート地

猪苗代湖の北岸に面し、東西北を磐梯山、安達太良山、吾妻山などの名峰に囲まれた会津地方の一大リゾート地。日本海式気候で、年平均積雪量は1~2m。夏は登山や湖水浴、冬はスキーなどが楽しめる。郊外には田園風景が広がり、特産品はソバ、トマト、牛乳など。世界的な学者・野口英世の生誕地としても知られている。

移住支援

新築住宅取得で最大180万円、中古住宅取得で最大110万円を補助。民間賃貸住宅の利用に対して、月2万円を上限に12カ月支給。出産手当として第1子5万円、第2子7万円、第3子10万円、第4子以上は20万円を支給する。

猪苗代町商工観光課 ☎0242-62-2117

<https://www.town.inawashiro.fukushima.jp/cb/hpc/Article-6836.html>



移住しました！
旅行業の会社を
開業



「大好きな猪苗代湖で旅行商品を広めたい」と加藤さん。

加藤 律樹さん（27歳）
埼玉県出身。大手グループ企業に就職し、福島のホテルに配属。昨年、地域おこし協力隊になり、旅行業「Anti（カトリップ）」も開業。

移住・観光促進の協力隊をやりながら 地域限定旅行業を手がける会社を開業！

裏磐梯のリゾートホテルで4年間フロントマンとして従事した加藤さんは、猪苗代の自然と人に魅せられ独立を考えるようになった。

「周りにゲストハウスを始めたり、商品開発をしたりする若者が多いんですよ。私も磐梯高原エリアで活動するため、移住・観光促進の地域おこし協力隊になり、個人事業として地域限定旅行業の会社を立ち上げました」と言う。

遊覧船「かめ丸」を使ったサンセットクルーズ、猪苗代湖を自転車で一周するツアーなどを実施。取得した空き家でレンタサイクル事業、長期滞在型お試し住宅なども計画している。



湖畔に誕生したバレルサウナもオススメ。バーベキューなどの施設もある。

石川町

いしかわまち



移住相談者に町の詳しい情報を伝える竹原さん。地域おこし協力隊として活動している。

東北一のラジウム含有量を誇る母畑(ぼばた)温泉。古くから湯治に利用されてきた。

移住しました！
移住コーディネーター
を担当



石川町の人々の魅力を伝える 移住コーディネーターとして活動

「東海大学海洋学部で海の研究をしましたが、海は山とつながっている。環境改善の観点から、林業に興味を持ちました」と竹原さん。

卒業後は厚生労働省主催の林業就業支援研修のため石川町を訪れ、定期的に通って林業のアルバイトも体験。町が移住コーディネーターを担当する地域おこし協力隊を募集していることを知り、2022年12月に着任。現在は主に空き家情報の整理や移住相談などの活動を行う。

「地元の人々は木の上で枝を切る特殊伐採など、すごい技術を持っています。その魅力を伝えて、関係人口も増やしていきたい」と話す。

竹原 司さん（24歳）
東京都出身。林業就業支援研修で石川町に来町。2022年12月から移住コーディネーター。

ちょうどいい大きさに暮らしやすいまち

福島県中通りの南部に位置する中規模のまちで、市街地には大型スーパーや医療機関なども揃っている。白河市といわき市のほぼ中間にあり、幹線道路やJR水郡線などのアクセスはいい。郊外は稲作やリンゴ・ブドウなどの果樹栽培、畜産の盛んな農村地帯。母畑温泉など4つの温泉郷を抱える観光地としても人気が高い。

移住支援

40歳未満で町内企業勤務なら月1万5000円、町外企業なら月1万円を上限に最大36カ月を家賃補助。子育て世代や若者世代が新築住宅を取得した場合に70万円、中古住宅取得で35万円を補助。移住者にトータルで最大500万円を支援。

石川町企画商工課 ☎0247-26-9111

<https://www.town.ishikawa.fukushima.jp/portal/>



林業体験プログラムのアシスタントも仕事の1つになっている。



移住しました！
アートワーク
ショップを企画

玉川村

たまかわむら



雄大な自然のなかでサイクリングを楽しめるのが魅力。多くのコースが設定されている。

サイクリングやカヌーが体験できる村

東京都心から車でも電車でも約2時間、人口約6200人のコンパクトな村。「日本一自転車好きな村」として多彩なサイクリングコース、雄大な阿武隈川でのカヌーなど体験型コンテンツが豊富。スーパーフルーツ「さるなし」をはじめとしたおいしい食べ物も魅力だ。中央部に福島空港を有する空の玄関口で、JR水郡線も南北に走っている。

移住支援

設備が整ったお試し住宅での暮らしが体験できるメニューを用意。1泊1000円で2泊から29泊まで滞在が可能だ。新築住宅を取得した移住者に基本額30万円+加算額、中古住宅を取得した移住者に基本額20万円+加算額を支給。

玉川村企画政策課 ☎0247-57-4628

<https://www.vill.tamakawa.fukushima.jp/akiya/>



窓ガラスは子どもたちの作品でいっぱい。「ZASSOU」は自由なアートであふれている。

古民家を改修して活動の場を創出 アートの楽しさを子どもたちに伝える！

アートの世界を見てみたいと都会へ出たのち、2年ほどでUターンして地域おこし協力隊になった鈴木さん。にぎわいの創出で情報発信できる仕事に興味があったからだ。また、園児や児童を対象にアートワークショップを企画。古民家を改修したアートコミュニティスペース「ZASSOU」もオープンさせた。

「絵は上手い下手ではなく、自分を表現するもの。ここへ来る子どもは、いくらでも汚していいというルールにしてあるんですよ」

活動を広げ、山菜採りや収穫体験など村の暮らしに基づいた体験事業も始めている。



自由な発想で子どもたちをアートの世界へ導く。地域の未来に種を蒔く活動だ。

HIRATA-MURA

平田村

ひらたむら

標高952mの蓬田岳は平田村のシンボル。東北百名山にも選ばれ、登山道が6つある。



「ジュピアランドひらた」で開かれる「芝桜まつり」。約25万株の芝桜が植栽されている。



高さ約10m、落差約8mの「山鶏滝(やまどりのたき)」。ふくしまの遊歩道50選や福島遺産百選にも選ばれている。



交通のアクセスに恵まれた 阿武隈山系の中にある山間の村

福島県の南部に位置し、いわき市と郡山市のほぼ中間にある村。全地域が阿武隈山系の中、標高500～700mのなだらかな山間地帯になっている。四季折々にさまざまな草花がこの地を彩る豊かな自然環境、阿武隈の大地と水がもたらす地酒や自然薯、高原野菜などの特産品、時代を超えて受け継がれた駒形じゃんがら念仏踊などの伝統芸能、文明年間に築城された蓬田館跡などの文化遺産が村の魅力だ。

平田村企画商工課 ☎0247-55-3115

<https://www.vill.hirata.fukushima.jp/site/iju/>



【観光スポット】

村のシンボルである「ジュピアランドひらた」。春には一面を絨毯のように染め上げる芝桜、初夏にはギネスにも認められた品種数を誇るあじさい園と3万株以上のゆりが見ごろを迎える平田村の花園だ。

有機質の土壌と寒暖差の大きな気候で、強い甘味が特徴のアスパラが育つ。村の振興作物だ。

永遠5歳の芝桜の妖精の女の子です。平田村をよろしくね！

移住支援

夫婦のいずれかが45歳未満で、村内で新築または中古住宅を取得した場合、基本額は新築で30万円、中古で15万円、さらに転入者・子育て・村内業者施工の加算あり。結婚新生活を支援する事業も実施している。

平田村イメージキャラクター ジュッピー



浅川町

あさかわまち

毎年8月16日に打ち上げられる「地雷火」。山頂で花火が炸裂する。



花火の伝統を200年以上受け継いできた町

福島県中通り地方の南部に位置する小さな町。阿武隈山系の山々に囲まれ、川沿いの平坦地にコシヒカリの田んぼが広がっている。一揆騒動の犠牲者を供養するために始まった花火の伝統が200年以上も受け継がれ、今では春夏秋冬で花火が打ち上げられる。JR水郡線を利用すると、郡山駅まで約1時間とアクセスがいい。

移住支援

県外からの移住者の住宅取得に、新築または建売で最大210万円、中古住宅で最大190万円を支給。新婚世帯の住居費や引っ越し費用に最大60万円を補助。出産祝い金も用意している。

浅川町企画商工課 ☎0247-36-2815

<http://www.town.asakawa.fukushima.jp/ijuteiju/>



移住しました！
カフェ＆バーを
運営



夫婦でカフェ＆バーを運営している川音さん。田んぼに囲まれた隠れ家的なお店だ。

大病もコロナも乗り越えて 隠れ家的カフェ＆バーを前進させる！

長年アパレルの世界にいた道さんは、家業を継いだお兄さんを手伝うためにUターン。結婚して2人の子どもに恵まれたが、妻の佳子さんに大病が見つかる。入退院の繰り返しでは実家の迷惑になると転職を決意。須賀川のカフェで1年ほど修業してから、自宅敷地内に店舗を建設した。

「コロナにも苦しめられましたが、この4月から本格営業。カフェ巡りの好きな人がインスタを見て来てくれます」と笑顔を見せる。

快復した佳子さんと店を切り盛り。苦難を乗り越えた2人の挑戦は始まったばかりだ。

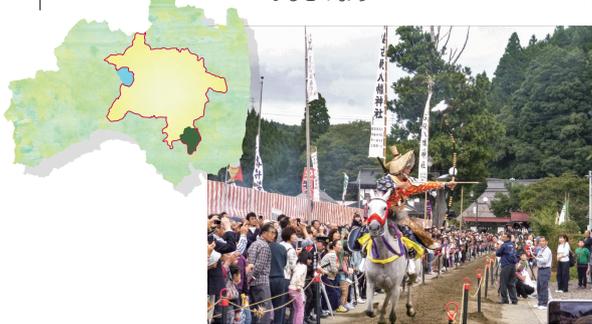
川音道さん(43歳)、佳子さん(43歳)
浅川町出身で同じ中学校の同級生。道さんは文化服装学院卒業後、アパレル業界にいたが、佳子さんの病気をきっかけに飲食業に転身。2019年に「LATRY(アトリー) Cafe & Bar」をオープンさせた。



エスプレッソマシンでコーヒーを淹れる道さん。「ATRY Cafe & Bar」のインスタは必見だ。

古殿町

ふるどのまち



春の桜と秋の流鏝馬で人が集まる町

福島県南部にある人口約4500人の山間の町。古い街道沿いにあり、いわき市、郡山市、白河市へはいずれも車で1時間前後。「越代(こしだい)の桜」はヤマザクラの巨木で、福島県でも遅咲きの桜として知られる。秋には、町名の由来となった古殿八幡神社の800年も続く流鏝馬(やぶさめ)を見に多くの観光客が訪れる。地酒や味噌がおいしいと評判だ。

移住支援

移住を目的に住宅を取得した方に、新築または建売で100万円、中古で50万円を支給(用地取得・町内業者建築・子育て世代の加算あり)。出産祝い金、園児の保育料・給食費無料、児童・生徒の給食費無料の制度もある。

古殿町産業振興課 ☎0247-53-4620

<https://www.town.furudono.fukushima.jp>



竹のしなりを利用する足踏みロクロで器をつくる富夫さん。



移住しました！
グリーンウッドワークの
教室を主宰

古殿八幡神社例大祭の最大の見どころは、馬上からの矢で射る流鏝馬。

12年前に移住して廃校を工房に活用 古殿町がグリーンウッドワークの聖地に

「木工に使える廃校を探したんですが、10カ所くらい手紙を出していちばん熱心だったのが古殿町の町長。元保育園でちょうどいい大きさだったんですよ」と語る富夫さん。

本場イギリスで学んだグリーンウッドワークは、機械を使わずに手作業だけで椅子や器などをつくる木工。その技術を身につけた日本人はごくわずか。作品の受注以外に器挽き、スプーンづくり、ナイフづくりの教室も開いていて、最近では女性の参加者も多い。道具類は海外のプロの目にもとまり海を渡っているのだから、もはや古殿町になくはない存在だ。

井丸富夫さん(70歳)
淳子さん(61歳)
富夫さんはイギリスで学んだグリーンウッドワークの第一人者。震災の年に神奈川から古殿町の廃校に移住。淳子さんは福島県出身。



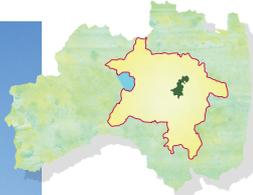
注文・木工教室の情報は、「クラフトハウス 井丸」で検索を。

三春町

みはるまち



日本三大桜の1つ「三春滝桜」は国の天然記念物。樹齢は1000年を超えている。



日本三大桜・滝桜がある歴史の古い城下町

阿武隈山地の西裾に位置する三春町は、大部分が標高300～500mの丘陵地。春は日本三大桜の1つ「三春滝桜」が咲き誇り、多くの観光客が訪れる。郡山市へ車で約30分と近く、ベッドタウンとしても人気が高い。歴史の古い城下町で、近年は蔵を利用したカフェも増えている。磐越自動車道を利用すれば、会津にもいわきにも出やすい。

移住支援

町外から移住した新婚・子育て世帯を対象に、月2万円を上限に家賃を最大2年間補助。奨学金を返還中の方を対象に、年間最大18万円を最長8年間助成。子どもの出生時と1歳到達時に各5万円、最大10万円を「みはるプリベイドカード」にて交付。

三春町企画政策課 ☎0247-62-1122
<https://miharu-gurashi.jp/live/>



移住しました！
減農薬で
イチゴ栽培



2畝のハウス2棟でイチゴを栽培している宮島さん。2年後には規模を5倍に増やす計画だ。

宮島清人さん（35歳）
 みやしまさと
 長野県出身。ベンチャー企業でイチゴ栽培を体験。3年前に三春町に移住。新規就農した。

5年間は実験と割り切り 未来を見据えながらイチゴ栽培

山梨の農業ベンチャー企業でイチゴ栽培事業にかかわった宮島さんは、親戚の農地がある三春町に移住。3年前から減農薬でイチゴ栽培を始め、お客さんの声を聞きながら直売している。しかし、5年間は実験するための期間だという。

「大規模化で人を雇うようになったら、もう後戻りはできない。5年間は国の補助金を活用できるし、その間に起こり得るすべての失敗を経験しておきたいんです」と語る。

イチゴ以外に、万が一に備えてイチジクとブドウも実験栽培中。じつに堅実な農業で、近いうちに成功に向けての青写真が見えてきそうだ。



減農薬のイチゴが評判になっている。近くの郡山市から買いに来る人も。

移住しました！
新聞販売店を
継業

小野町

おのまち



昼間は専用の機械を使って折り込みチラシを作成する古崎さん。驚くほどの働き者だ。

自然石の上立つ東堂山鐘楼(とうどうさんしょうろう)は町のシンボルの1つ。500体を超える昭和羅漢も見られる。



地域おこし協力隊の任期を経て 約450世帯を受け持つ 新聞販売店を継業

古崎さんが地域おこし協力隊になったのは9年前。まだ制度が始まって間もないときだ。情報発信や体験ツアーの手伝いなどの仕事は、3年の任期で終了。そのとき、約450世帯を受け持つ新聞販売店の店主から「高齢で辞めたい。やってみないか」と誘われ、事業を受け継いだ。まさに継業の典型。毎朝2時半に起き、自らも約90世帯に新聞を配り続けている。「地域のために偉いと褒めてくれる人もいますが、自分ができることを探しているときに役割を与えられたのでありがたかったです。結婚して家族もできたし、小野町に来て本当によかった」と話す。

古崎泰介さん（35歳）
 古崎たいすけ
 埼玉県出身。9年前に地域おこし協力隊で小野町に移住。6年前に新聞販売店を継業した。

アクセスに恵まれた自然豊かなまち

阿武隈地域のほぼ中間に位置し、郡山市といわき市に接している。夏井川とその支流に沿って平坦地が形成され、夏井千本桜や高柴山のヤマツツジなどが有名。郡山市やいわき市へ向かう磐越自動車道やあぶくま高原道路が通っており、現在は浜通りへ向かうふくしま復興再生道路との接続工事が進行中でますます交通のアクセスがよくなっている。大型の商業施設も整っている。

移住支援

移住情報プラザ「つどっておのまち」を設置。移住相談に対応している。条件に応じ町外からの移住者の住宅取得に最大150万円+10万円分の商品券を支給。39歳以下に月2万円上限・最長1年の家賃補助、農家民宿開業に最大50万円の補助あり。

小野町企画政策課 ☎0247-72-6939
<https://ono-akiyabank.com/>



子どもは4歳と2歳の女の子。時間があるときは、近くの牧場へ遊びに出かける。

